

## 小・中学校段階における病弱児指導 6 教育活動での配慮（指導の工夫）その2

### ★健康状態の改善に関する内容について★ ～自立活動の時間における指導との関連を～

健康状態の改善に関する内容の指導に際しては、特に自立活動における指導との密接な関連を保つようにして、学習の効果を高めるようにします。

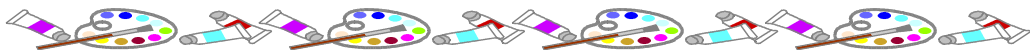
各教科の中でも、体育（保健体育）科、理科、家庭科などにおける病気の予防や健康な生活、身体の仕組み、身体に必要な栄養素や食品など直接身体活動に関わる内容については、自立活動の病気の状態の理解や生活管理に関すること、健康状態の維持・改善に関する事項などに関連を図り、自立活動の時間における指導と補い合いながら学習効果が一層高められるようにすることが大切です。

### ★教材・教具や補助具の工夫、教育資源の活用について★

病弱の児童生徒の一般的な傾向として、授業時数の制約、学習の遅れ・学習空白、身体活動の制限、経験の偏り、病気の不安等による意欲の低下、社会性の未熟などの状態が見られます。このような理由から、こうした実態を十分に考慮して適切な指導計画を作成します。

病状等の理由により、あるいは運動・動作の障害のために身体活動の制限を余儀なくされていたりする場合には、体育（保健体育）をはじめとした実技や実習（実験）等を伴う授業では、内容の取り扱いや教材・教具、指導法などを創意工夫することが求められます。

理科や社会など経験を重視する教科においては、観察、実験、社会見学等を行うことが学習の基盤となる重要な学習活動ですから、省略することは避けなければなりません。授業時数に制約のある場合は、実験等の経験を可能な限り取り入れることが望まれます。



### ★体験的な活動における指導方法の工夫★

病気の事情から、体育など実技を伴う教科への参加、家庭科の実習、社会や理科の観察・調査、見学など、あるいは校外学習や運動会といった体験を伴う活動に際して制限のある場合が多くあります。その際、単に見学させるだけだったり、別室での待機だったりするのではなく病気の実態にあった学習課題を準備して取り組ませることが大切です。特に、病気の影響で得意だったことができなくなる状況については、心理面でのフォローも十分行います。通知表での評価も斜線や「評価不能」といった記載についても、本人・家族の気持ちを慮り創意工夫を重ねて十分に配慮したいものです。

### ★負担過重とならない学習活動の設定★

学習の遅れを取り戻したいという強い思いから、無理をしてしまう子どもがいます。特に卒業や進学を目前に控えた時期に、不安や焦りから無理を重ねて病状を悪化させてしまうことが少なからずあることから、十分に留意した学習環境の設定を心がけなければなりません。